

デジタルアーカイブの収集・保管・流通と 利活用・還元・運用について

～archivist と coordinator の必要性～

後藤忠彦、櫛彩見（岐阜女子大学）

1. デジタル・アーキビストとデジタルアーカイブ・コーディネーター

月尾氏が“デジタルアーカイブ”を提言されてから二十数年経過し、デジタルアーカイブの収集・保管・流通の整備が行われ、地域コミュニティ、機関等の開発からハブ、統合ポータルが設置された。一方、デジタルアーカイブの利活用が各分野で進みだそうとしている。

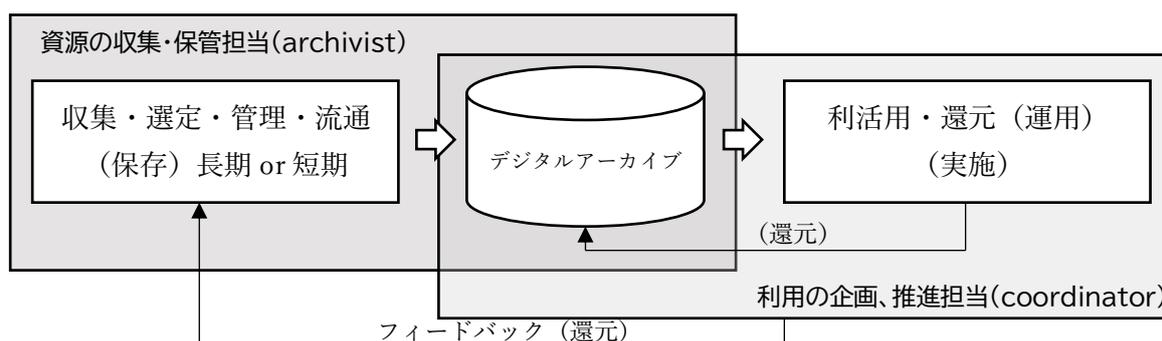


図 〔収集・保管・流通〕と〔利活用・還元（運用）〕

岐阜女子大学は、大学、大学院、社会人のデジタルアーカイブの人材養成で文部科学省の現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）に2004年から採択され、当時、その資格としてarchivistかcoordinatorにするかで困っていた時期があった。当時の風向きとして、収集・保管・流通（archivist）に関する資料の意見が多く、各機関、関係者の協力・支援でデジタル・アーキビスト資格認定機構を設置した。しかし、情報化に関して当初は収集・保管が進められていたが、今後の発展を考えると、利用の企画・運用・推進が重要となるとの思いがあり、デジタルアーカイブ・コーディネーターの名称を必要になった時に使用できるように整えておいた。今後の発展には、各分野の利活用・還元の企画・運用・推進を支えるデジタルアーカイブ・コーディネーターの役割が重要と考える。

2. 利活用の必要性について

デジタルアーカイブの利活用・還元・運用の必要性については、平成10年の文部省の説明資料の中にも、図のように示されている。その後、知的財産戦略本部の「知的財産推進計画

2005」で、デジタルアーカイブでの知的創造サイクルの活性化の必要性が示され、また、平成29年の「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」(デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会)でも図のような報告がされている。

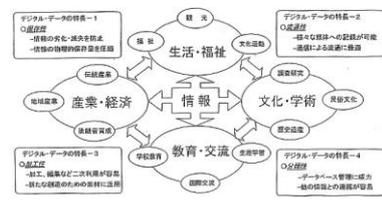


図 文部省 資料 (平成10年頃)

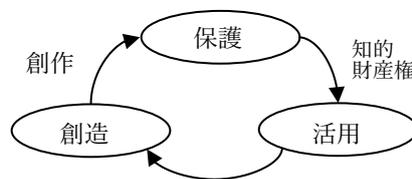


図 知的創造サイクル

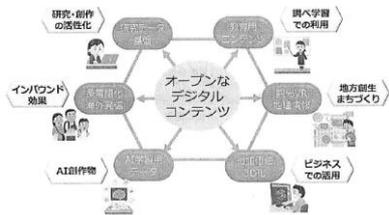


図 デジタルアーカイブ社会における活用イメージ (例)
(デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドラインより)

3. 岐阜女子大学の利活用、還元の実践……提示・提供から課題解決・知的創造等へ

岐阜女子大学での利活用、還元等の実践は2010年頃から沖縄サテライト校を中心に進めた。

(1) 「沖縄おっらい」…2000年頃からの沖縄の地域文化資料のデジタル保管を利用

観光(主として高校生の修学旅行)用として、2011年から毎年1万名以上が利用している。約10年間の活用結果がフィードバックされ、評価、改善し、毎年改善結果を提供している。

(2) 沖縄の学力の向上(学習指導)…2013年まで全国学力・学習状況調査平均点が沖縄県の小学校は毎年最下位であったが、学力(学習指導)の向上に、過去の教育実践資料のデジタルコンテンツを用いて、分析、解析を進め2014年にその結果を提供し、手引きを参考に先生方の努力で実践校2校の学力が大きく向上した。沖縄県全体も教育委員会、教員の努力で向上した。

